

# 青翔会

令和8年  
6月16日(火)

午後1時開演  
(正午開場、午後3時45分頃終演予定)

全席指定

※字幕表示はありません。

- お願い
- 出演者などの変更の場合はご了承ください。
  - 駐車場がございませんので車でのご来場はご遠慮ください。
  - 上演中は、時計等のアラームや携帯電話の電源はお切りください。
  - 上演中の写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。

青翔会は、国立劇場養成所能楽(三役)研修生をはじめとする若手能楽師の技能研鑽のための公演です。次代を担う若手能楽師たちが、日頃の稽古の成果をご披露するため、懸命に舞台を勤めます。皆様のあたたかいご声援をお待ち申し上げております。

## 舞囃子 弓八幡

ゆみやわた

後宇多院の臣下が、男山にある石清水八幡宮の初卯の神事に訪れると、そこに天下泰平の象徴である、袋に収めた弓矢を持つ老人が現れます。その正体は、末社である高良の神でした。御世を言祝ぐ脇能で、若々しい高良の神霊が八幡神の縁起を語り、神徳を讃え、颯爽と「神舞」を舞います。

## 舞囃子 東岸居士

とうがんじ

旅人は清水寺で、東岸居士という説教者と出会います。居士は衆生に仏縁を結ばせようと、橋をかけるための寄進を集めているのだと語りました。旅人の所望に応え、居士は、人々は苦しみから仏法によって救われるという内容を謡い舞います。

さらに旅人から乞われると、腰に羯鼓を付けて舞い、「羯鼓」、鼓も鼙も極楽の歌舞の菩薩の音楽であると言って、悟りの道を説くのでした。

## 舞囃子 船弁慶 後

ふねべんけい

兄・源頼朝との不和が原因で都落ちした源義経一行は、大物の浦にたどり着きます。今回の舞囃子は、船を沖に出した義経らの前に、平知盛が怨霊となって現れる場面を上演します。知

盛の怨霊は長刀を手に取って勇壮に「舞働」を舞い、恨みを晴らそうとしますが、義経や弁慶に敗れて波間に消え入ります。

## 狂言 清水

しみず

主は、茶の湯で使う水を汲んでくるように太郎冠者に命じ、秘蔵の桶を渡します。しぶしぶ清水に向かう太郎冠者でしたが、いつもこき使われては身が持たないと、途中で桶を置いて帰ってきてしまいました。主には、道中で鬼に襲われたので、桶を投げつけて帰ってきたと嘘をつきました。主は、桶を取り返そうと自ら清水に向かいます。これに乗じた太郎冠者は鬼に扮し、太郎冠者をもっと大切にするように、と主を脅します。帰ってきた主は、鬼が太郎冠者を鼠負することを不審に思い、再び桶を取りに行くと言い出しますが……。

## 能 羽衣

はごろも

三保の松原に釣りに来た漁夫の白龍は、松の枝にかかっている美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとします。そこに天人が現れ、衣を返して欲しいと頼みますが、白龍は返そうとしません。衣がなければ天に帰れないという天人の嘆きを聞き、白龍は舞を見せてくれたら衣を返すと言います。天人は喜び、優雅な舞を舞うと天に帰っていきます。

入場料金 正面 2,000円 脇正面 1,300円 中正面 1,000円  
学生：脇正面 900円 中正面 700円  
※障害者の方は2割引きです。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。

発売日 電話・インターネット予約開始 5月10日(日) 午前10時より  
窓口営業日 5月13日・22日・30日、6月3日・13日  
※国立能楽堂チケット売場窓口・自動発券機は国立能楽堂主催公演日(日)のみの営業(午前10時～午後6時)となります。  
※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。

電話 国立劇場 チケットセンター (午前10時～午後6時)  
0570-07-9900 03-3230-3000 [一部IP電話等]

インターネット 国立劇場チケットセンター [検索](#)

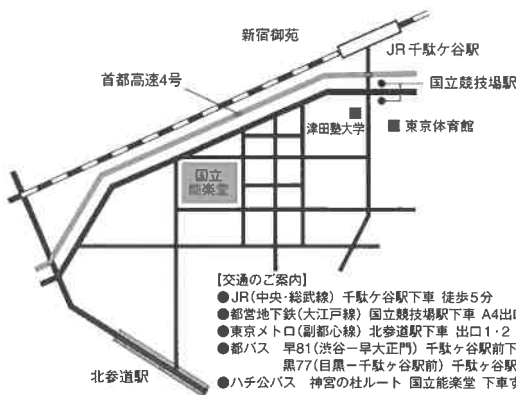
●プレイガイド=チケットぴあ <https://t.pia.jp/>  
e+(イープラス) <https://eplus.jp/>

主催：独立行政法人日本芸術文化振興会

**国立能楽堂**

国立劇場養成所

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 TEL. 03-3423-1331 (代)  
<https://www.ntj.jac.go.jp/nou.html>



伝統芸能を未来につなぐ  
**くろごちゃんファンド(国立劇場基金)**  
～国立劇場各館の事業に 皆様のご支援をお願いいたします～  
お問合せは▶ TEL 03-3265-6719 [くろごちゃんファンド](#) [検索](#)